

五泉市第2次水道ビジョン 中間評価 概要版

1.水道ビジョンの中間評価にあたって

(1)水道ビジョンの中間評価の趣旨

本ビジョンは策定してから5年が経過しており、自然災害への対策、人口減少などによる収入減、新型コロナウイルス感染症の影響、老朽化施設の更新費用の確保など、変化する社会環境に柔軟に対応するためにこれまで取り組んできた事業の中間評価を行いました。

2. 事業の評価と計画

(1)事業の取り組みの中間評価

現計画の策定からこれまでの事業の取り組みについて中間評価を行います。

基本方針	施策	取り組み	評価	今後の計画
安全	水質の管理	水安全計画	・水安全計画の策定(令和元年度) ・水安全計画の見直し(令和6年度)	・浄水設備状況等の変化に合わせて見直しを実施する
		良質な水源の確保	・五泉第9水源(井戸)を新設し、供用開始(令和3年度より)	・15年ごとに定期的に水源井戸の洗浄を実施する
	水質の監視	水質検査計画	・水質検査計画の策定(毎年) ・水質検査結果の公表(毎年)	・定期的に水質検査と監視を実施する
		水質監視の強化	・各配水区の末端給水栓で毎日検査を実施(毎年)	・各配水区末端に自動モニタリング装置の設置を引き続き検討する
	水質の保全	環境対策	・五泉・東部・菅沢配水区施設の照明をLEDに取替(令和6年度)	・浄配水設備を省エネルギーに優れた機器に更新する
		受水槽管理の指導	・受水槽設置者への水質検査の実施、報告の指導(毎年)	・受水槽設置者に適切な維持管理に努めるよう指導を実施する
強靱	危機管理体制	危機管理体制の強化	・各種危機管理マニュアルの作成及び見直し(令和2、6年度)	・引き続き定期的な見直しを行いながら危機管理体制を強化する
	防災・減災対策	水道施設の耐震化計画	・村松第1・第2配水池耐震補強工事を施工(平成30年～令和2年度)	・耐震性能を有する東部配水池の更新工事に着手する(令和7年度より)
		水道施設の浸水対策	・浸水対策を行った上で、東部浄水場の機械電気設備を更新(令和4年度～令和6年度)	・浸水想定区域内の水源井戸、電気設備等の浸水対策を検討する
		停電対策	・東部浄水場に非常用発電装置を設置(令和6年度)	・他の水道施設においても非常用発電設備の設置を検討する
		給水拠点の確保	・五泉浄水場に緊急給水装置と給水車を配備(令和2年度) ・給水訓練の実施(令和3年度より毎年)	・毎年定期的に給水訓練を実施する
		配水区別の相互融通	・老朽管の更新工事を施工(毎年)	・引き続き老朽管の更新工事を施工する
		耐震管路の整備	・耐震管を使用して水道管の更新、新設工事を施工(毎年)	・引き続き耐震管への水道管の更新、新設工事を施工する
持続	経営基盤の強化	水道経営の一元化	・すべての簡易水道を五泉水道に編入して水道事業を一元化(令和2年度より)	
		業務委託	・メーター検針、取替え、水質検査など各種業務を民間に委託(毎年)	・五泉浄水場に水道施設を集中管理できる中央監視システムの構築に着手する(令和7年度設計委託発注)
		人材育成	・研修会や講習会に参加(毎年)	・各種研修会等に参加して専門分野の人材を育成する
	資産管理	アセットマネジメントの見直し	・アセットマネジメントの見直しを実施(令和4年度)	・令和10年度に見直しを実施する

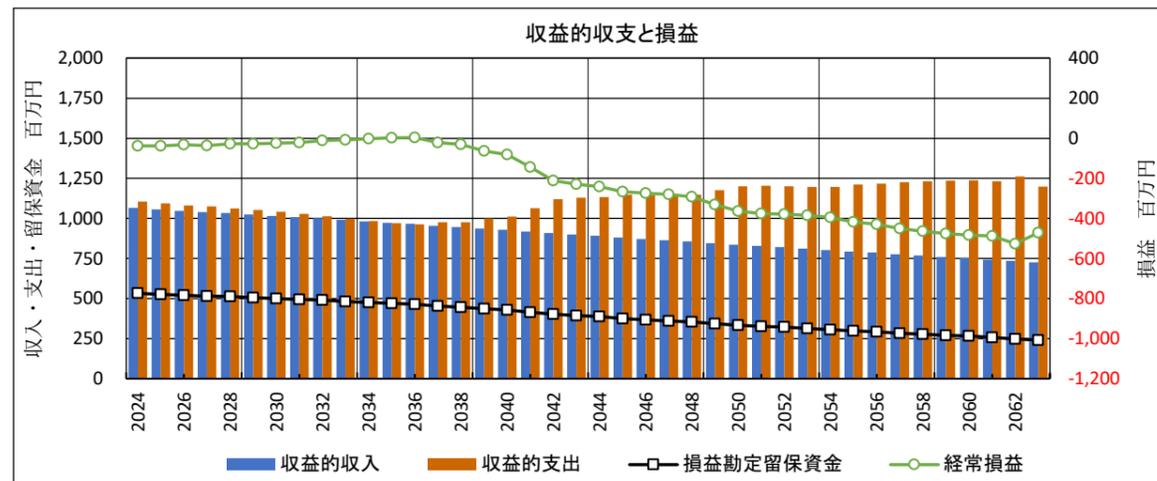
3. 財政計画

(1) 財政シミュレーション

現状を把握するため、現行の料金水準を据置いた場合について財政収支の見通しを把握します。

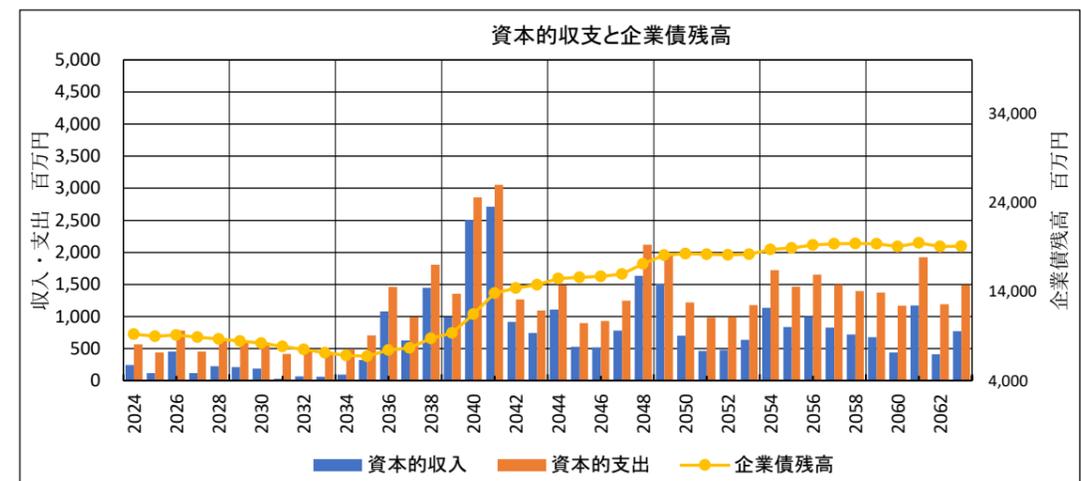
・収益的収支の予測

更新基準年数で施設を更新した場合の収益的収支の試算は、経常損益はマイナスが続く結果となりました。また、2039年以降は収入が減少することに加えて、支出が増加することでマイナスが拡大する試算となりました。



・資本的収支の予測

更新基準年数で施設を更新した場合の資本的収支の試算は、更新需要の増加に伴い 2035年から2041年の間に企業債残高が急激に増加します。



・財政見通し

(1) 給水収益

収益的収入の大部分を占める給水収益は、人口減少により水需要の縮小に伴い料金収入の減少が見込まれるため、財政状況は一層厳しくなることが予想されます。

(2) 建設改良費

資本的支出のうち建設改良費は2035年以降、更新時期を迎える管路が多くなるため、人口規模に見合った施設規模の縮小や長寿命化などに取り組み、適切な施設整備を進めていきます。

(3) 企業債残高

建設改良費の財源となる企業債は建設改良費の増加に伴い企業債の残高が増加が見込まれますが、将来世代に過度な負担を残さないように企業債借入額の適正化に取り組む必要があります。

試算の結果から、将来にわたり健全な事業経営を維持していくためには、水道施設の維持・修繕を適切に行うとともに、長寿命化に取り組み投資の抑制を図りながら効率的な事業運営に努める必要があります。

水道事業の経営安定化のために、今後も財政収支の定期的な見直しを行い、必要に応じて適正な料金設定を検討していきます。

4. フォローアップ

この五泉市第2次水道ビジョン(中間評価)は作成時で想定される要因をもとに計画したものであり、今後の水道料金の収入または経済情勢の動向によってはこの計画とは大きく異なる可能性があります。したがって、計画の見直しには、PDCA サイクルをくり返すことによって、状況変化に対応しながら目標達成に向けこの事業計画を進めていきます。